

資料4 形式例④（外国語活動・外国語科）

外国語活動／外国語科の指導案を作成する時には、以下の項目について他教科と異なります。

3 単元の目標

- ～できる。
- ～できる。
- ～しようとする。

目標は資質・能力ごとに示しましょう。

（知識及び技能）

（思考力、判断力、表現力等）

（学びに向かう力、人間性等）

下記のように3つの資質・能力を盛り込んで1文で書く方法もあります。

「例 友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、野菜の歴史について書かれた英文を読み、読んだことを基に考えたことや感じたことを、英文を引用したり内容に言及したりしながら伝え合うことができる」（中学校、小学校高学年 外国語科）

「例 学級の友達に感謝の気持ちを伝えるカードを作るために、相手に伝わるように工夫しながら、色や形など身の回りの物について、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。」

（小学校中学年 外国語活動）

参考文献：『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

中学校外国語、小学校外国語・外国語活動』 令和2年3月 国立教育政策研究所

小学校中学年 外国語活動は語尾が「～できる」ではないことに注意！

- ・中学校では、学習指導要領に基づき、各学校で生徒の実態を踏まえて外国語の学習到達目標を具体的な形で示す「CAN-DOリスト」を作成することになっています。この「CAN-DO リスト」が達成されるように年間指導計画（評価計画を含む）を立て、それに基づいて各単元や1時間ごとの授業の指導と評価を行うことが重要です。
- ・目標を設定する際には、5領域（外国語活動は3領域）が分かるようにします。
（例）「～を伝え合うことができる」→ 話すこと【やりとり】

4 単元の評価規準

※「外国語活動・外国語科」の単元の評価規準については、「3 単元の目標」に合わせて、5領域のうちどの領域を評価するのか分かるように明記しましょう。

（例1）

4 単元の評価規準（話すこと【やりとり】）

（例1）タイトルに評価する領域を入れる。

（例2）

（例2）表に評価する領域を入れる。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと (やりとり)	<知識> ① ～している。 <技能> ① ～している。	① ～している。 ②	① ～しようとしている。 ②

「知識・技能」を分けて記述する。

- ・ 1 単元で評価する領域は 1,2 領域にしぼり、指導の重点化を図りましょう。
⇒ 年間の評価計画をしっかりと立てておく必要があります。
- ・ 外国語活動・外国語科では、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」には深い関りがあることから、評価規準の文末を対のような形で示し、両者を一体的に評価することができるとしています。
⇒ 評価規準の表現は文末を変えるだけでもよい。

6 本時の指導（8／11）

（1）目標

本時の指導目標を明確かつ具体的に書きましょう。

（思考力、判断力、表現力等）

（2）展開

指導観で記述した内容や取り組みと、本時の指導とをリンクさせることが大切です。

過程・時配 (学習形態)	学習活動と内容	○指導上の留意点（UDの視点も含む） ☆評価（方法） ◎個別の支援	資料
見いだす ○分 【全体】	1 ○ 本時の学習活動がどのように流れ、教師はどのような場面でどのような具体的手立てをとるのがわかるように書きましょう。	○ ユニバーサルデザインの視点を含めた指導上の留意点、個別の支援を取り入れて手立て等を考えましょう。	
自分で 取り組む ○分 【個】	・ 3 ○ ・ 学習問題・学習課題にあたる場所は、外国語活動／外国語科では「学習目標」または「Goal」になります。文末表現は「～する・しよう」や「～できる（ようになる・なろう）」になります。		